

## 第4分科会B（中学校）

# 言語活動の効果的な支援はどうあればよいか ～表現力を高める活動を通して～

発表者 栗林 裕之（大分県 国東市立安岐中学校）

指導助言者 坂元真理子（鹿児島工業高等専門学校准教授）

司会者 徳丸 宏信（大分県 国東市立武蔵中学校）

## 1 はじめに

### （1）文言の意味の整理

○「表現」とは ○自己表現 ○4技能の「総合的な指導」と「統合的に活用」

### （2）大分県ならびに当地区の現状と課題

○大分県グローバル人材育成推進プラン，大分県英語教育改善推進プラン

○「新大分スタンダード」と「生徒指導の3つの機能を生かした授業づくり」

○当地区の現状 ⇒ “チームくにさき”での組織的な授業改善

○知識・理解にとどまらず，活用へ

○「話す力」「書く力」の定着が不十分，技能統合型の言語活動・指導が不十分，  
基本的学習習慣の定着が不十分，「共に学び合う集団」づくりが必要

⇒ 学習意欲，協働する力，表現力の向上

## 2 取組内容

（1）くにさき地区（国東市・姫島村）中学校外国語教育研究部会の研究方針

（2）基礎・基本の定着に関するアンケート ～部会員相互の問題意識の共有～

（3）授業モデルの作成

（4）「自己表現トレーニング」，メッセージづくりに使える表現用例集，「英語力アップのための効果的トレーニング法」の作成・活用

（5）外国語指導助手の協力（英会話，意見文）

（6）本年度改訂の教科書の構成に基づいた研究チームの編成・教材研究

チーム	研究テーマ	評価資料の例
GET	基礎的・基本的な知識・技能を習得するための学習活動の工夫・効果的な支援	ワークシート 小テスト 定期テスト
USE	スモールステップで、「話す力」「書く力」を育てるための学習活動の工夫・効果的な支援	ワークシート パフォーマンステスト
Project	学んだことの集大成としての表現活動や複数の技能を統合的に駆使して課題解決に取り組む学習活動の工夫・効果的な支援	ワークシート ポートフォリオ

### 3 成果

#### (1) 主体的・協働的に学ぶ英語授業の在り方

- 地域の魅力を題材にした教材開発（発信力を育成し、内発的動機付けを促す）
- “生徒が使える” CAN-DO リストの作成  
（生徒自身が自己評価し、学習をふり返ることができるようになるための、  
学ぶスキルの「見える化」）
- 「思考・発信型」の言語活動の充実（目的意識、相手意識）
  - ・「基礎から積み上げる学び」から「基礎に降りていく学び」への転換
  - ・「文法から意味内容へ」から「意味内容から文法へ」への指導の転換
  - ・「教室内で学ぶ英語」から「教室外で使える・通じる英語」への転換

#### (2) 授業実践例

- Writing と Speaking と Listening の統合的活用
  - ・「自分のことを紹介しよう」
  - ・「外国人の観光客に、姫島に伝統的に伝わるものを紹介しよう」
  - ・「4 択クイズ “ダウトを探せ！”」（うそつき英作文）
- Speaking と Writing と Reading の統合的活用
  - ・「Mr Kuri が行ったことのない都道府県は？」

#### (3) ワークシートの工夫・改善

- 必須項目…本時のめあて（CAN-DO）、target sentence、表現活動、振り返り
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れて  
…学級のすべての子どもにとってわかりやすく、small step を踏んで
- ワークシートは使う意味を吟味する、ワークシートで気をつけること

### 4 今後の課題

- ミクロとマクロの英作文
  - ・語彙指導、語順指導等、1つの文を正確に書く力（ミクロの英作文）
  - ・つながりのある複数の文で自分の考えを書く力（マクロの英作文）
- 定着を図るために
  - ①繰り返し触れさせる
  - ②文単位以上で暗唱させる
  - ③既習の言語材料から自分で選び、内容を考えて使用させる
- 英語教師もバランス感覚が大事  
長期 ⇔ 短期    コミュニケーション活動 ⇔ 文法    Input ⇔ Output  
Fluency（流暢さ）・量 ⇔ Accuracy（正確さ）・質    全体 ⇔ 個・ペア  
言語材料を限定した活動 ⇔ 言語材料を自由に使う活動
- 教師の2つの役割の再考 → 双方が依存しあう関係
  - ・教師が主導して授業を運営する役割と、脇役に回り授業の支援を行う役割
  - ・授業を行うときに自分がどのような役割で生徒に向かっているか
  - ・その授業の目的にあった役割を果たしているか